

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表
《物部川地域：第3四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<物部川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (講じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>1 南国市の園芸主幹品目シントウの再構築</p> <p>《南国市》</p> <p>全国一のシントウ産地維持のため関係機関と協力の上、コスト削減や品質改善などに取り組み、生産・流通・販売上の課題を解決する。</p> <p>【JA南国市、JA長岡、JA十市】</p>	<p>○3JA合同の生産者大会や現地検討会、消費地動向調査などに取り組み、3JA間の生産技術及び販売レベルの高位準化に努めた。</p> <p>○重油価格が高止まりするなか、省エネ型温水温風暖房機やヒートポンプの省エネ効果を検証した結果、約30%の重油削減ができた。</p> <p>○天敵の導入を推進した結果、H24園芸年度で94%と高い導入農家率となった。また、先進地調査や実証ほ結果から土着天敵活用の気運が高まり、導入農家が増加した(試験導入5戸→実証後20戸)。ただし、新たな難防除害虫の発生への対策が求められる。</p> <p>○研修事業を終了した研修生が新たに栽培を開始した。</p> <p>◆重油等生産コストの上昇や高齢化の進行などもあり、H19園芸年度の農家数130戸、栽培面積18.3haから、H24園芸年度は106戸、13.9haと減少しており後継者の育成が必要である。</p> <p>◆新たな省エネ機器や重油代替機器は導入コストがかかり普及しにくい現状がある。</p> <p>◆収量が伸び悩んでおり、低収要因の解明や増収技術の導入が必要である。</p>	<p>・関係機関での検討情報共有(営農改善会5回)</p> <p>・燃油高騰緊急対策事業説明会の開催支援(1回)</p> <p>・JA長岡シントウ部会研修会(4回)</p> <p>・各JAシントウ部会反省会(4回)</p> <p>・各JAシントウ部会総会(2回)</p> <p>・JA南国市中央シントウ部会(1回)</p> <p>・JA十市まつり研修会(1回)</p> <p>・環境制御研修会(1回)</p> <p>・3JA合同会議(3回)</p> <p>・出荷予測・栽培情報発信(4~7、9~12月)</p> <p>・新規栽培者に対する個別巡回指導及び情報収集(延28回)</p> <p>・経営分析結果の検討及び経営目標の設定(3回)</p>
<p>2 エメラルドメロンの販売力向上対策</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市夜須町のJA土佐香美園芸部メロン部会夜須支部部員が生産するエメラルドメロンは平成19年には「夜須のエメラルドメロン」として商標登録を行うなど、独自のブランド化に取り組んできた。平成21年度から23年度には、県産業振興推進総合支援事業を活用し、生産面において新技術の導入(日射比例かん水制御システム)、販売面では、それまでの県内や関西圏を中心とした販売から関東圏での販売拡大を目指して、新たな販売戦略の構築に努めてきた。</p> <p>過去3カ年間の取り組みをもとにさらなる生産拡大、関東圏での販売量拡大・知名度向上と合わせて全消費地でのブランド化に取り組む。</p> <p>【JA土佐香美】</p>	<p>○日射比例かん水制御システムの導入により、生産農家のかん水作業の省力化が図られるとともに、品質が向上し、可販果率が向上した。また、関東地区での百貨店等における試食宣伝やバイヤーの産地招聘など継続した販売促進活動が知名度を向上し出荷量が拡大してきている。</p> <p>◆関東地区への出荷量拡大</p> <p>◆冬季の草勢維持による果実肥大や品質向上</p> <p>◆害虫の薬剤抵抗性低下により、化学合成農薬の防除効果が低減し黄化えそ病等虫媒伝染性ウイルス病が多発している。</p> <p>○◆高温期の太玉軽減に取り組む24園芸年度の7月の太玉果率が1ポイント軽減したが、さらに取り組みが必要。</p>	<p>・試食宣伝の実施(東京1回、高知県内4回、名古屋3回、徳島1回、兵庫県1回、大阪1回、愛知1回)。</p> <p>市場等が高値の商談(紀ノ国屋5/28、高知丸果6/6、徳島青果6/19・10/3、大阪中青10/17、名古屋青果10/12、関西土佐会果樹研究会10/30、ロイヤルホスト11/8)。</p> <p>・炭酸ガス発生装置導入農家7戸の実態調査を行った。</p> <p>・高温期に適した温度、かん水管理について現地検討会の開催(5名、6/4)。</p> <p>・黄化えそ病の勉強会(7/25)や天敵導入勉強会(8/14)の開催。</p> <p>・日本農業賞の申請。</p>
<p>3 ニラの産地力強化「日本一のニラ産地の維持・拡大へ向けた仕組みづくり」</p> <p>《香南市、香美市》</p> <p>JA土佐香美は日本一のニラ産地であるが、近年は、個々の農家の規模拡大が進む一方で、高齢化により部会員数は減少している。こうした状況の中で、農業所得の向上や産地の維持・拡大を図るため、産地でまとまりをもって、環境保全型農業技術や新技術の導入に取り組むとともに、担い手対策や既存農家の規模拡大支援など、産地力の向上に向けた取り組みを総合的に進める。</p> <p>また、食の安全・安心への取り組みとあわせて、「人と環境に優しいニラ産地」としての土佐香美ブランドを構築し、市場での有利販売に取り組む。</p> <p>【JA土佐香美】</p>	<p>○JA土佐香美園芸部ニラ部会は平成20園芸年度に253戸・84.5haであったが、平成24園芸年度には234戸と主に中山間地域での高齢化による離農により減少傾向にあるが、面積は97.1haと増加傾向にある。これはU・ターンによる新規就農や既存農家の規模拡大により減少をカバーしている。販売額も平成20園芸年度23.5億円から平成24園芸年度には28.8億円と年々伸ばしており、市場販売高では4年連続30億円を超える実績を残した。</p> <p>生産上の対策としては新技術や新品種の積極的な取り組みによる反収の増加、コスト削減を進め、経営の安定化を推し進めている。</p> <p>77戸の雇用や規模の意向調査と31戸の規模別販売額や所得、A品率、雇用の妥当性等の分析を実施した。</p> <p>◆生産、流通、経営の取り組みの推進によるさらなる産地力強化</p>	<p>・点天との食博への共同出展、ニラ等JA土佐香美園芸品宣伝(ニラチラシ配布約5千部、ニラ出前授業、試食宣伝、園芸品詰め合わせの販売約5千セット)</p> <p>・栽培管理や品質向上のための講習会や現地検討会、目慣らし会の開催(34回)。</p> <p>・栽培管理向上のための実証ほ及び展示ほの設置(8カ所)。</p> <p>・経営改善のための分析データを活用した研修会(9回)。</p> <p>・役員会で作型調査の実施を提案した。</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・燃油高騰緊急対策事業説明会へのシトウ生産者参加数(8名) ・JA長岡シトウ部会研修会参加者数(46名) ・各JAシトウ部会反省会参加者数(58名) ・JA南国市シトウ部会総会参加者数(27名) ・JA十市まつり研修会参加者数(13名) ・JA南国市中央シトウ部会参加者(13名) ・環境制御研修会シトウ生産者参加数(5名) ・出荷予測・栽培情報発信回数(22回) ・経営分析調査実施農家数(4戸) ・経営目標の設定農家数(3戸) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒートポンプ導入農家:2戸 ・木質チップボイラー導入農家:1戸 ・木質ペレットボイラー導入予定農家:1戸 ・H25園芸年度販売額:9.7億円 	<p>【指標】シトウ販売額 H23園芸年度 10.4億円</p> <p>【目標(H27)】 10.8億円</p> <p>【H25到達点】 10.4億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・部会全体で天敵を試験的に導入することの合意が得られた。 ・審査の結果高知県代表に選定された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部会全戸が1作目の作型に天敵を導入。 	<p>【指標】エメラルドメロン販売額 H23園芸年度 4.4億円</p> <p>【目標(H27)】 4.8億円</p> <p>【H25到達点】 4.8億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・共同出展ブースへの来場者約4万人。 ・全戸対象とした作型調査の合意が得られ、実施中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した生産者のJA土佐香美ブランドや消費宣伝への意識が高まるとともに消費者のJA土佐香美園芸品目への意識も高まった。 	<p>【指標】ニラ販売額 H23園芸年度28.4億円</p> <p>【目標(H27)】 30.0億円</p> <p>【H25到達点】 29.0億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>4 地産地消・食育の推進</p> <p>《南国市》</p> <p>これまで先進的な地産地消の活動を行ってきたが、学校給食への野菜の供給割合は10%台であり、これからも農業生産法人の作る重量野菜の季節的利用、南国産野菜の生産情報の提供など地産地消のさらなる推進のため、組織の連携強化等を図っていく。あわせて今まで以上に、病院や介護施設など業務筋への販売、配送拡大に努める。また、生産者と消費者をつなぐ場づくりとしてオープンした「農家レストランまほろば畑」についても、安定的に経営することにより、地産地消を推進していく。</p> <p>【JA南国市出資農業生産法人、JA南国市、JA長岡、JA十市、南国市地産地消推進協議会、農家レストランまほろば畑、南国市】</p>	<p>○市内小学校への給食用食材の配送システムが整ったことにより、地元野菜の供給割合は12.5%を達成した。また、業務筋への配送先は21事業体となった。(H21～24)</p> <p>○地産地消フェア(H21)や地産地消推進協議会総会を通じて推進体制の強化を行った。(H21～24)</p> <p>○生産者と消費者をつなぐ場づくりとして道の駅南国風良里に毎火曜日農家レストランをオープンした。5グループによる輪番制で、来店者の平均は180人を超える。(H22～H24、103回開催、来客数18,692人)</p> <p>◆学校給食における学校給食会(教育委員会)と農林水産課サイドの連携</p> <p>◆配送業務を法人の一事業として成り立たせるための販路拡大</p> <p>◆まほろば畑のコンセプトの一つ「長く続ける」ための課題解決</p> <p>◆新メニュー開発と農産物PR方法の習得</p>	<p>◆高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(2名・6,431千円)</p> <p>◆南国市JA出資型農業生産法人育成補助金(5,000千円)</p> <p>◆農家レストランまほろば畑、業務改善会(チーム会)実施 8回</p> <p>◆チーム会で整理した課題を役員会で検討 8回</p> <p>◆農家レストランまほろば畑総会 1回</p> <p>◆調理研修 1回</p> <p>○先進地視察研修 1回</p>
<p>5 直販所「あけぼの市」の機能強化による農家の所得向上及び交流人口の拡大</p> <p>《南国市》</p> <p>国道195号通称「あけぼの街道」の全線開通を好機ととらえ、直販所・加工所を本線沿いに移転拡充して地域農産物の販売や地域資源を活用した加工品の開発・販売を行い、地域農業者の所得向上を図るとともに、隣接する「ながおか温泉」への誘客を促進し、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>【JA長岡】</p>	<p>○農用地区域除外手続き完了(飲食店・直販所)(H24.9)</p> <p>○飲食店部分の農地法転用許可、都市計画法開発許可完了(H25.2)</p> <p>○県産業振興推進総合支援事業採択申請(H25.2)</p> <p>○補助金審査会(H25.3.18)</p> <p>◆独自性を持たせた競争力のある商品開発</p> <p>◆併設する「ながおか温泉」との連携</p> <p>◆品揃えを豊富にするため新規会員募集による会員の増</p>	<p>・県産業振興推進総合支援事業費補助金 県50,000千円、市25,000千円</p> <p>・直販所生産者会議 12回</p> <p>・あけぼの市運営会議 30回</p> <p>・あけぼの市生産者組合臨時総会 1回</p>
<p>6 地域農産物を活用した直販所「ひかり市」の施設拡充</p> <p>《南国市》</p> <p>農産物の価格低迷と資材等の高騰により大幅に減少している農家所得の向上のため、直販所を移転改装するとともに機能拡充を図り、地元農産物を活用した商品の販売と顧客獲得に取り組む。</p> <p>【JA十市】</p>	<p>○県産業振興推進総合支援事業費補助金を活用して、直販所「ひかり市」を移転・拡充した。(事業期間H24.11.29～H25.3.30、直販所移転改修面積133.87㎡(売場面積94.50㎡))</p> <p>○直販所会員数が25名から67名に増大した(H25.3現在)。</p> <p>○新店舗名「ごとおち市」としてH25.3.30オープンした。</p> <p>◆会員数を当初目標100名に向けて新規募集を行う必要がある。</p> <p>◆米粉パン事業について、技術の向上や商品の磨き上げが必要である。</p> <p>◆独自性のある看板商品の開発が必要である。</p>	<p>○新規会員募集</p> <p>○直販所会員との意見交換(5/20)</p> <p>○ごとおち市運営会議(8/7)</p> <p>○◆支援会議(9/3)</p> <p>○◆アドバイザー派遣事業(11/11)</p>
<p>7 地域の特産品づくり～農産物加工への取組～</p> <p>《南国市》</p> <p>特産品づくりについては、これまでも取組みを行い様々な特産品が開発されてきた。今後、一部の企業・団体でなく、特産品づくりに取り組む組織・グループを育成し、市全体に広めるとともに、プロダクトアウト型でなく、顧客ニーズも把握しながら、地域資源を活かした特産品づくりを促進する。また、できあがった特産品の売り込みを通じて地域をPRし、地域の魅力向上を図る。</p> <p>【なんこく空の駅推進協議会、西島園芸団地など既存企業、組織、グループ、新しい組織、グループ、JA南国市出資農業生産法人、南国市商工会、南国市観光協会】</p>	<p>○平成24年4月よりJA南国市出資農業生産法人『南国スタイル』の活動開始</p> <p>加工品の原料となる農作物の生産や一次加工品開発等この法人においても担うことが見込まれている。</p> <p>○地域特産品商品開発事業を行うための市単独補助金創設により、特産品づくり誘導、支援体制を整備した。</p> <p>○商工会において「小規模事業者地域活力活用新事業全国展開支援事業」を導入し、四方竹等を使った加工品を試作。試作品のブラッシュアップを実施。</p> <p>○加工品の商品化についてはH25年3月末時点で累計35品目となり、当初目標の20品目は達成できた。</p> <p>◆特産品づくりに取り組むプレイヤーの発掘・育成</p> <p>◆魅力ある商品づくり</p>	<p>・実践型地域雇用創造推進事業 推進支援員3名(事務局長1人含む)、実践支援員4名計7名</p> <p>・地域特産品等研究開発事業の募集</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
◆農家レストランまほろば畑の開店日数 <u>32日(4/2～12/17)</u>	◆学校給食への供給割合 <u>14.28%(11月末)</u> ◆株式会社南国スタイル 業務筋への供給 新規供給先13事業体 合計34事業体 ◆農家レストラン4/2～12/17の来店者数 <u>6,186人/32回(平均193人/回)</u>	【指標】学校給食における地元野菜の供給割合(H22:10.7%)金額ベース 【目標(H27)】15% 【H25到達点】13% 【指標】業務筋への供給(H22:6事業体) 【目標(H27)】15事業体 【H25到達点】18事業体
飲食店建築工事(5/15～9/26) 直販所工事着工(9/24～2/28竣工予定) 運営組織:株式会社なの工房設立(11/18)	飲食店建築工事完了(11/15)	【指標】直販所等の売上額(H22:33,000千円) 【目標(H27)】100,000千円 【H25到達点】33,000千円 【指標】直販所等の雇用者数(H22:3人) 【目標(H27)】8人 【H25到達点】3人 【指標】ながおか温泉入場者数(H22:16万人) 【目標(H27)】19万人 【H25到達点】16万人
○直販所会員89名(H25.12末現在) ○営業時間の延長(17時まで)	・営業日数 週6日を達成できた ・直販所スタッフ雇用 5名を達成できた	【指標】直販所の営業日数(H22:週2日) 【目標(H27)】週6日 【H25到達点】週6日 【指標】直販所への出店者数(H22:11名) 【目標(H27)】100名 【H25到達点】90名 【指標】直販所売上額(H22:4,325千円) 【目標(H27)】50,000千円 【H25到達点】34,500千円 【指標】直販所スタッフ雇用(新規) 【目標(H27)】3名 【H25到達点】5名
・H25年度新規商品 2商品 シャモスキやきセット、四方竹釜飯の素 ・地域特産品等研究開発事業の応募数 (5団体、5品 うち採択 4団体、4品)	・新規に特産品開発に取り組む事業者数:3事業者	【指標】地域産品を活用した新しい組織・グループ設立数(新規) 【目標(H27)】10組織・団体 【H25到達点】8組織・団体 【指標】開発商品売上額(H22:656万円(28品目)) 【目標(H27)】1,000万円(40品目) 【H25到達点】1,900万円(24品目)

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<物部川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>8 「ごめんケンカシャモ」のブランド化の取組</p> <p>《南国市》</p> <p>大河ドラマ「龍馬伝」を契機に再燃する龍馬ブームを好機と捉え、豊富な園芸野菜を使った「ご当地グルメ」として、龍馬に関する逸話や先塲の地等の歴史的背景を活用した「シャモ鍋」を新たに創出し、「地産「来」消」による交流人口拡大を図るとともに効果的なメディア露出などによる情報発信を強化する。</p> <p>また、シャモの飼育・ブランド化を通じて休耕田等を活用した飼料米栽培、さらには薬用野菜の出荷残渣の飼料化や鶏糞の土壌還元等の可能性を検討し、新たな農業手法を検討する。</p> <p>流通の少ないシャモ肉は少数生産であっても高級食材として取引されるため、飼育環境のトレーサビリティ等による高付加価値化を図り、「ブランド鶏肉」としての外商戦略を展開していく。</p> <p>【ごめんシャモ研究会、南国市商工会、南国市】</p>	<p>○地域内にある資源(歴史+野菜)を融合させた「シャモ鍋」の創出及び県内外への情報発信(H21~22)</p> <p>○「シャモ鍋社中」によるシャモ料理提供。(H22~24)</p> <p>◆シャモ鍋、シャモバーガー、シャモスキヤキ等、シャモ料理を創出し、南国市外へのPRを行うこと、南国市へ来てもらって金を落としてもらう体制【地産「来」消】(シャモの生産~料理として提供)づくりを整備することができた。</p> <p>また、2013年版のシャモ鍋マップの完成や、三角ポップの作成等も行った。</p> <p>○地産外商のための宣伝活動(H24)</p> <p>◆JAF会員誌への広報掲載や、大阪商談会「土佐の宴」・関東高知県人会への参加等、広報を兼ねた外商活動を行った。</p> <p>○加工品の開発(H24)⇒シャモ鍋セットが完成。販売開始。</p> <p>○HPの完成(H24)⇒シャモ鍋セットのネット販売の開始</p> <p>○シャモのブランド化(H22~24)</p> <p>◆シャモ肉の高品質かつ均一化を図るための飼育マニュアルの作成に向け、H23年度から高知農業高校の協力を得て飼育データの収集・蓄積を行った。</p> <p>また、安心で安全な肉生産のためトレーサビリティの確保にも取り組んだ。</p> <p>○県内へのシャモの広報</p> <p>◆RKCの取材や知事行脚、シャモ研の活動についての講演等、シャモをより知ってもらうための活動を行った。</p> <p>○アドバイザーとの課題相談を行い、現在の経営状態の問題点を洗い出した。</p> <p>◆生産体制の強化</p> <p>◆シャモ肉の高品質かつ均一化</p> <p>◆安定供給量(ロット)の確保</p> <p>◆販路開拓</p> <p>◆組織の経営強化</p>	<p>◆シャモを突破口とする中心市街地賑わい創出事業(高知県産業振興推進ふるさと雇用事業)(1名・3,062千円)</p> <p>◆ごめんケンカシャモ飼育事業費補助金(市単補助額1,000千円)</p> <p>◆高知県緊急雇用創出臨時特例基金事業費補助金(国補助金5,601千円)</p> <p>◆中小企業経営力強化資金(6,000千円)</p>
<p>9 大学生による地域応援団(サポーター)づくり</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>地域と大学等の学生の交流機会を増やし、相互の理解を深めることにより、物部川地域をサポートする『地域応援団(サポーター)』を作っていく。</p> <p>【人と地域の研究所、学生グループ】</p>	<p>○従来から開催されてきた地元住民との交流会が契機となり、高知工科大学において地域共生概論が履修科目として開設されたことにより、地域との関わりづくりが強力に推進されており、科目履修以外でも自発的に地域のイベントに参加する動きもある。また、地域と若者、特に学生をつなぐ役割を担うNPO法人「人と地域の研究所」が発足し、県から受託したふるさとインターンシップ事業において、再度参加を希望する学生や既参加学生の勧誘による参加者もあり、地域との関わりは参加学生にとっても意義あるものとなっている。</p> <p>○H24年度は、高知工科大学を中心に、学生と地域のニーズのマッチングを行い、63名の学生が地域と交流を行った。また、高知工科大学事務局と学生と地域の連携について協議し、学生の活動に対する支援を行うこととなった。</p> <p>◆地域に興味を持つ学生の確保</p> <p>◆活動内容の情報発信</p> <p>◆継続した交流への発展</p>	<p>◆高知工科大学の「和楽器同好会」の代表に豊友会(香北町佐敷)を紹介</p> <p>◆高知工科大学の「ココイコ!プロジェクト」(物部町神池)がスタート</p> <p>◆高知工科大学の学生グループ「防災・地域活性化(KPAD)」を香美市の防災担当者に紹介</p> <p>◆協同組合「垂生の里」が高知工科大学の「商品開発同好会」に新商品の開発を依頼</p> <p>◆物部川こども祭実行委員会が高知工科大学の学生グループ「香美市盛り上げ隊」にイベント企画段階からの参加を依頼</p> <p>◆黒代盆踊り実行委員会に高知工科大学の学生グループ「香美市を盛り上げ隊」を紹介</p> <p>◆平山地区における結プロジェクト推進事業の導入(1回75千円)</p> <p>◆高知工科大学の学生グループ「香美市を盛り上げ隊」に猪野々地区を紹介</p>
<p>10 加工品販売による夜須地域の活性化</p> <p>《香南市》</p> <p>地場産品を生かした加工品開発・販売を行い、生産農家の所得向上につなげる。</p> <p>【協同組合やすらぎ市】</p>	<p>○組合内に加工組織(製造部)を結成した。</p> <p>○事務局(加工担当者)を配置して試作を行い、商品候補3品を選定した。</p> <p>◆加工(生産)体制の整備</p> <p>◆加工方法の具体化と商品化</p>	<p>◆加工品生産計画検討(9回)</p> <p>◆加工レシピ作成・試作(7回)</p> <p>◆産業振興推進総合支援事業採択申請書提出</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・緊急雇用を用いて新規1名の雇用(営業強化) ・土佐の食1グランプリにシャモすき焼きで出店し、優勝(4/6,7) ・食1優勝ポスター、幟の完成 ・「シャモ冷麺」の試作品開発 ・ごめんな祭プロジェクト実行委員会とのメニュー開発による新製品(カレーパン)の試作品完成 ・地域活性化たからいちに出店し、最優秀グランプリを受賞(10/4,5,6) ・シャモ鍋マップの完成 ・農林水産省 地場もん国民大賞銀賞を受賞(11/2,3) 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャモ肉販売(10月末時点) 1,779.7kg (対前年比133%) ・シャモスキやきセット販売(11月末時点販売数 166セット) ・シャモ鍋セット販売(11月末日時点販売数 大51、小24セット) ・シャモ肉取引業者数(11月22日時点 45事業者、うち南国市内20事業者) 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】ごめんケンカシャモ提供店舗数(南国市内) (H23 15店舗) 【目標(H27)]18店舗 【H25到達点]18店舗 【指標】シャモ目標飼育羽数 (H23 2,000羽) 【目標(H27)]3,000羽 【H25到達点]1,500羽 【指標】ごめんケンカシャモを使った加工品数 (H23 0) 【目標(H27)]3品 【H25到達点]1品
<ul style="list-style-type: none"> ・豊友会の活動に高知工科大学の学生が参加(6回9名) ・「ココイコ! プロジェクト」(物部町神池)に高知工科大学の学生が参加(8回52名) ・香美市自主防災組織連絡協議会に高知工科大学の学生が参加(1名) ・協同組合「葦生の里」の取り組みに高知工科大学の学生が参加(2回10人) ・物部川子ども祭実行委員会に高知工科大学の学生が参加(2回4名) ・子育て支援ネットワークろばみみの活動に高知工科大学の学生が参加(2回5名) ・黒代盆踊りに高知工科大学の学生が参加(3名) ・平山地区の活動に高知県立大学の学生が参加(2回36人) ・高知工科大学の学生が猪野々地区を訪問(3名) 		<ul style="list-style-type: none"> 【指標】 交流した学生数 (H23年: 19名 ・高知県立大学2名 ・高知工科大学9名 ・高知大学4名 ・県外大学4名 【目標(H27)] 累計100名以上 【H25到達点] 80名以上
<ul style="list-style-type: none"> ・加工品生産計画検討参加者数(6人) ・加工レシピ作成(パン: 10品目) ・ゼリー試作: 7品目 ・加工レシピ作成・試作(トマトソース: 1品目) ・加工レシピ作成・試作(ジンジャーシロップ: 1品目) ・パン試作: (3品目) 	<ul style="list-style-type: none"> ・来店者数 4月20,345人(前年比102%)、5月21,828人(同99%)、6月18,597人(同102%)、7月17,384人(同103%)、8月17,156人(同105%)、9月16,732人(同107%) 10月15,718人(同93%)、11月17,262人(同104%) 	<ul style="list-style-type: none"> 【指標】加工品販売額 H22: 7,000万円 【目標(H27)] 1億円 【H25到達点] 8,000万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜物部川地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>11 生産から販売までのユズの総合的な産地強化対策</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市物部町を中心とした地域は、国内最大のユズの青果出荷(玉出し)産地であるが、生産者の高齢化から生産の維持が困難になっている。このため、小袋包装による生産体制の強化、出荷作業時の労力軽減、将来的に残すべき園地の選定、規模拡大が可能な体制整備を通じて、後継者を中心とした産地の維持発展を図る。</p> <p>【香美市、JA土佐香美】</p>	<p>○高齢化する生産農家の労働負担の軽減対策として、作業受託組織「ゆずもり」の事務局や料金体系を整備した。</p> <p>○全生産者を対象としたアンケート調査を実施し、樹種や樹齢の状況及び生産者の意向を把握した。</p> <p>○商品規格を見直し、従来の「平箱」や「冬至」から選り出した袋詰め商品の企画・販売を行って販路を拡大した。</p> <p>○貯蔵性に優れるが果色が薄い系統(公文2号)を「柚月」と命名し、別販売した。</p> <p>○荒選果労力を軽減する手段として、全量機械選果を試験的に実施した。</p> <p>○女性クラブの発足によって部会が活性化し、消費宣伝の体制が整った。</p> <p>○カラーリング施設を整備した。</p> <p>○後継者として3名が就農した。</p> <p>◆生産者の高齢化 ◆高齢化に対応した体制整備 ◆後継者の確保 ◆販路の拡大</p>	<p>ユズ産地協議会の開催(7回)</p> <p>ユズ生産部委員会の開催(4回)</p> <p>ユズ若手生産者との意見交換会の開催(3回)</p> <p>こうち農業確立総合支援事業に申請(五百蔵地区せま地直し、小袋包装機、カラーリング施設の3事業)</p>
<p>12 香美市ブランドの確立・特産品づくり</p> <p>《香美市》</p> <p>香美市ブランドの確立、特産品づくりを行うことを通じて、働く場の確保と所得の向上を図る。</p> <p>【香美市観光協会、食品加工グループ】</p>	<p>○平成21年度から香美市地域雇用創造協議会等が中心となり、新商品の開発や特産品の県内外への販売促進、ショッピングサイトの開設等を行った。これらの活動を通じて注目を集める商品も出始め、奥ものべ・じじばあんぜん会の「塩の道マーマレードしおゆず」が、平成23年度の土佐のいい物・おいしい物発見コンクールで優秀賞を受賞した。</p> <p>○H24年度は「しおゆずビール」「しおゆずおかず」の2品を新商品として発売し、商品を充実させている。また、奥ものべ・じじばあんぜん会のセット商品「平家のかおり」商品化も決定された。</p> <p>○べふ峡温泉や香美市地域雇用創造協議会が平成21年度から取り組んできたシカ肉の商品開発は、平成23年度までに9品目の商品ができた。平成23年5月に開催された土佐の食1グランプリでのシカドッグの優勝を機に、シカ肉の加工品が注目を集め、販路拡大につながった。</p> <p>◆シカ肉加工品の需要拡大に伴うシカ肉の安定供給体制の確立</p>	<p>・香美市観光協会運営事業費補助金 11,000千円</p> <p>・特産品の販売及びPR</p> <p>・「協同組合産生の里」が農業創造セミナーに参加</p>
<p>13 民有林における素材の増産</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>森林所有者の所得の向上と、山村地域の振興を図るため、引き続き集約化施策を推進し、森の工場の拡大と素材の増産に取り組む。</p> <p>【各森林組合、林業事業者等】</p>	<p>○造林事業費補助金や森林林業再生プラン事業を有効に活用し、作業道開設や高性能林業機械を利用した搬出間伐等に取り組んでおり、23年度ないし24年度においても地元説明会を開催するなど事業の周知に努め、「森の工場」の拡大を推進したことで目標面積を達成することができた。</p> <p>◆森林経営計画と森の工場計画等各種計画との連絡調整 ◆作業道及び高性能林業機械等の効率化作業システムの構築 ◆事業予定地の山林の所有者、所有界の確定が困難</p>	<p>・平成25年度の素材増産のための森林整備事業について、森林組合及び事業者への説明会を実施(4回)</p> <p>・森林経営計画の作成を支援</p> <p>・森林施策の集約化に向けた地元説明会を開催(3回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・農業基盤整備促進事業を導入して優良園地のせま地直しを行い、防除作業を省力化するためにスピードスプレー(SS)を導入することを合意した。 ・後継者がユズ栽培だけで生活できるよう、1～1.5haの面積で青玉、カーリング、黄玉、冬至、貯蔵とリール出荷し、防除作業を省力化させるためにSSを導入する経営モデルを作成することを決定した。 ・こうち農業確立総合支援事業の採択(3事業) 	<p>平成25園芸年度の販売額は4.7億円を達成した。</p>	<p>【指標】ユズ販売額 H23園芸年度 4.3億円</p> <p>【目標(H27)】 5億円</p> <p>【H25到達点】 4.5億円</p> <p>※販売額はJAへの入金額</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・特産品販売出店回数:30回 ・「協同組合生涯の里」が農業創造セミナーを通じて、5年間の事業計画を作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存商品の新規市場の開拓ができた。 ・特産品のPRができた。 	<p>【指数】開発商品売上額 (H22:4,808千円(10品目))</p> <p>【目標(H27)】 6,300千円(20品目)</p> <p>【H25到達点】 5,700千円(16品目)</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・素材増産のため必要な森林整備事業に係る情報共有が図れた ・物部森林組合が森林経営計画を策定(庄谷相地区) ・民間事業体が森林経営計画を変更(増加) ・素材生産のための作業道を6路線5,629m開設 	<ul style="list-style-type: none"> ・森の工場整備済面積18,143ha ・素材生産量は25,805m³(11月末) 	<p>【指標】 「森の工場」整備済面積 H22:9,400ha 【目標(H27)】 15,459ha 【H25到達点】 18,127ha</p> <p>【指標】 素材生産量(民有林のみ) H22:26,053m³ 【目標(H27)】 47,500m³ 【H25到達点】 30,600m³</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<物部川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 (これまでの主な成果:○ 課題:◆)	インプット(投入) (講じた手立てが数量的に見える形で示すこと)
<p>14 木質バイオマスの活用に向けての取組</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>需用者開発について三市が連携して取り組んだ結果、一定の進展があった。今後は排出量取引などを活用した需用者の負担軽減の仕組みづくりを行う。また、木質バイオマス燃料の安定供給の仕組みづくりについて検討する。</p> <p>【南国市、香南市、香美市、JA南国市、JA十市、JA長岡、JA土佐香美】</p>	<p>○3市が連携して、木質バイオマスの利用についての検討及び木質燃料の需用者開発を行い、国の制度を活用して、需用者の負担を軽減する形で園芸用ボイラ18基の導入が実現した。</p> <p>◆需用者の負担軽減 ◆木質バイオマス燃料の安定供給 ◆燃焼灰の処理</p>	<p>◆南国市、3JAと加速化基金事業(ペレットボイラー導入)に向けた打ち合わせを行った。</p>
<p>15 シイラ等の加工商材活用</p> <p>《香南市》</p> <p>シイラ等の加工による浜値向上と付加価値増加を通じて、漁業者の所得の向上を図る。</p> <p>【高知県漁協手結支所】</p>	<p>○地域の雇用確保(8名)</p> <p>○浜値の底上げ(支所が最低価格30円/kgで買い支え)の維持</p> <p>○H24加工品販売金額:1,197万円(シイラ加工品:786万円、シイラ以外加工品411万円)</p> <p>○H24シイラ原魚購入数量:59.5トン</p> <p>◆原魚の安定確保 ◆更なる衛生管理の向上 ◆新商品の開発 ◆新たな販路開拓</p>	<p>・既存取引先との定期的な情報交換(2回/週)</p> <p>・関係者協議及び情報共有(2回)</p> <p>・衛生管理指導(随時)</p>
<p>16 「ごめん」の賑わいづくり～ごめんの活性化～</p> <p>《南国市》</p> <p>かつては南国市の中核的存在であった「ごめん商店街」に再び賑わいを取り戻せるよう取組を行っていく。地元商店主の大半が高齢化し、後継者がいないために主体的な取組が生まれにくい状況だが、これまでの取組の中でできたやなせたかしロードや高知農業高校のアンテナショップ、ごめんの軽トラ市などを活かし、地元の意識醸成を図りつつ、賑わい拠点の創出や運営管理できる組織づくりにより、まず人が訪れる仕組みづくりを図っていく。</p> <p>【南国市商工会、南国市商工会後免支部、ごめんまちづくり委員会、地産地消ごめんの軽トラ市実行委員会、ごめんシャモ研究会、ごめん生姜アメ研究会、後免町公民館建設推進部会、高知農業高校】</p>	<p>○ごめんありがとう賑わいまちづくり事業推進員、ごめん町の集落支援員の配置するとともに、後免町公民館建設推進部会の設立、住民向けアンケート等の実施など住民間の話を活発化させた。</p> <p>○南国市商工会が事業主体となり、四国経済産業局の「中小商業活力向上事業」補助事業の採択を受け、高知銀行後免支店跡を活用し賑わい創出拠点(コミュニティハウス)「ごめん・よってこ広場」を開設した。</p> <p>○地産地消の軽トラ市<H24年度:2回開催(1回中止)>、「ハガキでごめんなさいコンクール(応募総数1,169通)」、「ごめんキャンドルナイト」「ごめんの町歩き」「ごめんなさいプロジェクト市民会議」「高知農業高校アンテナショップ・音楽部定期演奏会」「ごめん商店街シャッターアートとウィンドウディスプレイ」などを開催し、事業としては活発に行っている。</p> <p>◆「ごめん・よってこ広場」を含めた後免町活性化の実施主体としてNPO設立を準備しているが、後免町が主体とならなければならず、そのなかで実際のプレイヤーと財政基盤をどうするかが課題となっている。</p>	<p>・緊急雇用創出ごめん・ありがとう賑わいまちづくり事業費(5,573,000円)</p> <p>・集落支援員(2人)(3,264,000円)</p> <p>・軽トラ市開催(9/22)</p> <p>・軽トラ市開催(12/15)</p> <p>・よってこ広場イベント開催(31回 11月末現在)</p>
<p>17 香南市の地場産品販売促進</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の地場産品を事業者が一体となり販売活動を行い売り出すことで、香南市の知名度の向上や地域の農業者、商業者等の所得の向上を図る。</p> <p>【香南市観光協会、香南市内の事業者】</p>	<p>○カタログ冊子やネット販売サイトを作成し、香南市内の事業者の商品を販売している。(カタログ冊子:H22年度～、ネット販売:H23年度～)</p> <p>○自立運営に向けて事業の方向性を決定し、ネット部会を設立した。(H24年度)</p> <p>◆販売促進 ◆自立運営組織の構築</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(市民と地域資源の総力を結集したビジネス支援事業)→2名雇用</p>

アウトプット(結果) <small><インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと></small>	アウトカム(成果) <small><アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと></small>	指標・目標
<p>◆南国市及び3JA(要望農家等)と情報共有が図れた。 ◆JA長岡分(1箇所)は、木質ペレットボイラーが導入された。</p>		<p>【指標】 ペレット利用量 H23:1,230t 排出量取引 H23:-</p> <p>【目標(H27)】 ペレット利用量 1,230t 排出量取引 1,500t-CO_2</p> <p>【H25到達点】 ペレット利用量 517t 排出量取引 -</p>
<p>・販売先及び販売額の確保 ・加工作業従事者8名をパート雇用 ・シイラ原魚購入量:67.7トン</p>		<p>【指標】 シイラ加工事業の販売金額 H22:2,571千円 衛生管理の認証</p> <p>【目標(H27)】 700万円 県版HACCPの取得</p> <p>【H25到達点】 700万円</p>
<p>○よってこ広場(企画展:第1~9回までのハガキでごめんなさいコンクール優秀作品展示(5月中))</p> <p>・軽トラ市(9/22) 入込客数 1,500人</p> <p>・軽トラ市(12/15) 入込客数 1,500人</p> <p>・よってこ広場 入込客数 2,100人</p>	<p>・南国市地域雇用創出推進協議会の事務所を、コミュニティ施設「よってこ広場」が入居している空き店舗の2階に開設した。</p>	<p>【指標】賑わい創出のための拠点施設整備(H23:0件) 【目標(H27)】1件 【H25到達点】0件</p> <p>【指標】空き店舗活用(H23:0件) 【目標(H27)】2件 【H25到達点】1件</p> <p>【指標】地元・地域を巻き込んだ実際に活動できる組織の設立(H23:0組織) 【目標(H27)】1組織 【H25到達点】0組織</p> <p>【指標】ごめん商店街の歩行者通行量(H23:ばいきんまん前 12人/h)、(ジャムおじさん前 23人/h) 【目標(H27)】 ばいきんまん前20人/h ジャムおじさん前40人/h 【H25到達点】 ばいきんまん前15人/h ジャムおじさん前27人/h</p>
<p>◆まるごと旨市カタログ ・運営方針が確認され、新たにカタログ部会発足・会議が開催された。 ・2013年秋冬カタログ発行</p>	<p>秋冬カタログ販売実績(135件、840,445円)</p>	<p>【指標】 参加事業者数 H23:29事業者</p> <p>【目標(H27)】 35事業者</p> <p>【H25到達点】 30事業者</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<物部川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果:○ 課題:◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p>18 香南市の商業振興への取組</p> <p>《香南市》</p> <p>コミュニティガイド事業で作成・配布した「生活情報ガイド」や「コミュニティイベント」の継続により、地域の消費者に対し生活の利便性を提供するとともに、商業者のまとまりを再構築し、商業者が一体となって取り組みを行い、地域内での顧客の増加、さらには地域外への商圏拡大を目指す。</p> <p>【香南市商工会、香南市内の商業者】</p>	<p>○生活情報ガイド「香南市のおいしいのしいうれしい お店紹介BOOK」を作成し、香南市内全戸に配布した(H21年度、H23年度)ほか、来店者や香南市への転入者に配布を行っている。</p> <p>○「香南百貨店おひろめ市」を三宝山(H22年度)、天然色劇場(H23年度)、かがみ花フェスタ(H24年度)で開催し、商業者自ら店舗PRを行った。</p> <p>◆来店客の増加に向けた取り組みの推進</p>	<p>◆商業部会の開催(1回)</p> <p>◆高知県商工会連合会より広域振興等地域活性化事業(調査・研究)を受託</p> <p>◆商業部会役員会の開催(1回)</p> <p>◆地域活性化委員会の開催(5回)</p>
<p>19 地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興</p> <p>《香美市》</p> <p>海外での展開も視野に入れた新商品の開発や販路の開拓のほか、昔ながらの技術や文化の継承を図るため、次世代を担う後継者の育成にも取り組む。</p> <p>【高知県土佐刃物連合協同組合、香美市商工会、フラフ製造業者、香美市観光協会】</p>	<p>○香美市地域雇用創造協議会が中心となり、販売促進や商品開発に関する取り組みを行った。</p> <p>○市内に2箇所のアンテナショップが開設され、「ふらっと中町」での土佐打刃物の展示販売や「龍河荘ぐる里」での土佐打刃物鍛造体験を体験観光メニューとして販売した。</p> <p>○土佐打刃物製造業の後継者育成は、土佐打刃物後継者育成対応策検討会を発足し、対応策の検討を行った。</p> <p>○H24年度に、土佐刃物連合協同組合から県・香美市・南国市に「土佐打刃物製造業の後継者育成に向けたモデルプラン」の説明を行った。今後、事業化に向けて検討していく。</p> <p>◆地場産業の維持、後継者育成が課題である。</p>	<p>・香美市観光協会運営事業費補助金 11,000千円</p> <p>・土佐打刃物後継者育成助成事業 600千円</p>
<p>20 観光事業から観光産業へ～観光産業の振興～</p> <p>《南国市》</p> <p>交通の要衝という恵まれた立地環境を活かし、地域内の観光資源をつなぎ、地域が誇る史跡資源(長宗我部)や農業などの地域資源を活かして観光を産業として、成り立たせる仕組みを構築していく。</p> <p>【南国市観光協会、市内各観光に関わる企業・団体・グループ】</p>	<p>○観光コーディネート組織の設立(H21～23)</p> <p>・南国市観光協会がH24年度から観光コーディネート組織として活動していけるよう、事務局も含めて行政から独立した組織とする準備作業を行った。</p> <p>○観光ガイド組織の設立(H21～23)</p> <p>○観光ガイド組織「南国市観光案内人の会」はH23に設立された。</p> <p>○H24.4より観光協会に専任スタッフを配置し、企画力、機動力が大幅に向上し、観光商品の開発やブラッシュアップなどが進んだ。</p> <p>◆観光協会の組織及び体制の強化(「会員の増」、「財政の基盤づくり」等)</p> <p>◆「南国市観光案内人の会」のガイドとしてのスキルアップ。</p> <p>◆継続的な観光資源のブラッシュアップ</p> <p>・史跡を文化資源としてだけでなく観光資源として磨き上げること。</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(3名・13,882千円)</p> <p>・長宗我部フェス(長宗我部元親ラリー3含む)補助金(市単1,000千円)</p> <p>・岡豊山さくらまつり(土佐の食1グランプリ)補助金(市単2,000千円)</p> <p>・観光協会補助金(市単独2,100千円)</p> <p>・ごめんないプロジェクト事業推進補助金(市単独1,000千円)</p> <p>・土佐のまほろば祭り運営事業費補助金(市単独4,000千円)</p> <p>・藤澤アドバイザー研修(10/8 長岡温泉、あけぼの市等)</p> <p>・とさ旅セミナー (6/13 7/1 7/2 7/19 8/1 8/14 8/22 9/19、10/15、11/25、11/26)</p> <p>・エリアキャンペーン打合せ (5/21 6/5 6/26)</p>
<p>21 体験観光等の旅行商品化と販売の推進・地域の観光情報の発信</p> <p>《香南市》</p> <p>香南市の海と山と歴史などの地域資源を活用した体験観光等を推進し、交流人口の増大を図る。</p> <p>【香南市観光協会、地域の体験メニュー等提供団体】</p>	<p>○香南市観光協会が一般社団法人化し、旅行業第3種の登録を行い、旅行商品の企画から販売までの体制が整った(H22年度)</p> <p>○プロモーション活動:4回のべ77社(H24年度)</p> <p>○主催旅行の開催:8コース募集人数310名・実績295名(H24年度)</p> <p>○新たな取り組みとして土佐塩の道でトレイルランニングレースを企画・募集152名出走(H24年度)</p> <p>◆旅行商品の企画・販売</p> <p>◆地域素材を使った旅行企画の多様化</p> <p>◆エージェントに対するプロモーション</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業(地域まるごと旅行商品の開発販売及びランドオペレーター機能構築事業)―1名雇用(継続)</p> <p>・とさ旅セミナーへ参加(5回)</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	指標・目標
◆ポイントカード事業についてのアンケート(消費者及び商店者対象)の実施が決定した		【指標】事業者数 H23 873店 【目標(H27)】 現状維持 【H25到達点】 現状維持
・あかめナイフ販売開始(5月23日～) ・フラフ染め体験(小学生30名参加)		【指数】刃物製造業者数 (H23年12月末現在36事業者) 【目標(H27)】現状維持 【H25到達点】現状維持(後継者育成モデルプランの活用)
・岡豊山さくらまつり・土佐の食1グランプリ(4/7:入込客7,000人) ・第1回ごめん祭(5/12:入込客1,200人) ・長宗我部フェス(5/18:入込客1,500人) ・第25回土佐のまほろば祭り(8/3:入込客10,000人) ・エリアキャンペーン(リョーマの休日キャンペーンガイドブック秋号発行)<9月>	・観光協会の一般社団法人化を達成	【指標】観光協会の会員数(H23:77) 【目標(H27)】150 【H25到達点】85 【指標】一般社団法人数(観光協会の法人化) 【目標(H27)】1組織 【H25到達点】1組織 【指標】主要4観光施設※の入り込み数 (H21:483,000人) 【目標(H27)】500,000人 【H25到達点】517,000人 ※県立歴史民俗資料館、西島園芸団地、パンフィックゴルフ(以上、来場者)、道の駅南国風良里(ショップ、直販所のレジ通過人数)
土佐史跡めぐり～戦国の香美・香南を訪ねるの～ツアーを企画・募集・実施 第2回土佐塩の道トレイルランニングレース 土佐塩の道うおーく 長谷寺座禅ツアー	土佐史跡めぐり～戦国の香美・香南を訪ねるの～ツアーの参加者29人 土佐塩の道うおーく3回のべ23人 第2回土佐塩の道トレイルランニングレース ・トレラン講習会:選手15名参加 ・大会:191名エントリー 171名出走	【指標】年間プロモーション活動 【目標(H27)】年6回以上(年のべ50社以上) 【H25到達点】年6回以上(年のべ50社以上) 【指標】主催旅行の開催 【目標(H27)】10コース・募集200人以上 【H25到達点】10コース・募集200人以上

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<物部川地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>22 「森の駅」を中心とした体験型観光の推進</p> <p>《香美市》</p> <p>べふ峡温泉を「森の駅」と位置づけ、体験型観光の拠点施設として森林を活用した観光を推進する。また、体験プログラムの実施による地域住民との交流や地域の活性化につながる香美市の新たな産業としての観光の育成を図る。</p> <p>【香美市、香美市観光協会、地域内の観光施設及び体験型観光メニュー等の提供団体】</p>	<p>○香美市地域雇用創造協議会において、H21～23年度に毎年度、対象を変えてモニターツアーを実施し、香美市の観光素材、体験観光メニューのモニター評価等を受け、改善すべき点の把握等を行った。また、モニターツアーの開催を通じて一般旅行商品の造成へとつながった。</p> <p>○べふ峡温泉林間広場の基盤整備などにより環境整備も行った。これによりイベントなどへの活用が期待できる。</p> <p>◆香美市観光協会とべふ峡温泉の体制を確立し、べふ峡温泉(森の駅)の再建を行うことが急務である。</p> <p>◆新たな体験プログラムの造成や既存メニューの洗い直しをし、参加者の受け入れ体制のシステム構築を行う。</p>	<p>◆香美市観光協会運営事業費補助金 11,000千円</p> <p>◆別府森林総合施設管理補助金 19,000千円</p> <p>○香美市観光協会募集ツアー</p> <p>・春の塩の道うおーく(4月6日)</p> <p>○べふ峡温泉利用体験型観光企画(登山、アウトドア料理、バーベキュー、ライダー・登山応援)</p> <p>◆香美市観光拠点等整備事業費補助金 3,000千円(内県補助2,000千円、龍河洞洞内照明LED化事業)</p> <p>◆香美市観光案内板等整備事業 1,276千円(内県補助638千円、平山案内看板)</p>
<p>23 広域観光の取組の推進</p> <p>《物部川地域全域》</p> <p>物部川地域の自然、観光施設、体験メニュー等の多様な観光資源を広域的に組み合わせ、魅力的な観光商品とするとともに、一体として情報発信を行うことにより、観光客の広域的な誘致を推進し、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【高知中央広域観光協議会のうち南国市、香南市、香美市、南国市観光協会、香南市観光協会、香美市観光協会】</p>	<p>○物部川地域観光振興協議会として初めてエージェンツセールス活動(関西及び中四国地区)やモニターツアーを実施し、エージェンツのニーズを全体で共有し、旅行商品化に向け旅行会社と検討。</p> <p>○協議会やとさ旅セミナーin物部川において作成したプランの中には、旅行商品化(予定:龍河洞体験コース、あじさい街道)されるものも出てきており、取組の成果が出始めている。</p> <p>◆4市(高知市、南国市、香美市、香南市)で立ち上げる定住自立圏共生ビジョン観光部会に基づく新たな組織体制の構築に向け、仕組みづくりや事業内容を固める必要がある。</p>	<p>・高知中央広域観光協議会設立総会の開催</p> <p>・実務担当者会の開催(6回)</p> <p>・とさ旅セミナー参加(6回)</p> <p>・広域観光パンフレットの作成(2万部)</p> <p>・観光・物産展の開催(12/7・8)</p>
<p>24 還元水を活用した野菜の生産体制の構築とブランド化</p> <p>《南国市》</p> <p>還元水を活用した栽培技術を確立し、「還元野菜」としてのブランド化を図るとともに成分分析をし、機能性の検証を行う。</p> <p>【農業生産法人株式会社南国スタイル、株式会社トリムエレクトリックマシナリー、高知大学】</p>	<p><現状></p> <p>㈱南国スタイルでは(株)日本トリムの開発した「還元野菜整水器」によって生成された水を農業生産に活用するために、平成23年6月より葉菜類中心に試験栽培を行ってきている。整水器を利用することで生育促進効果など生産面で違いが現れてきている。平成24年度には高知県農業技術センターでピーマンの育苗試験、高知大農学部ではホウレンソウ・カイワレダイコンの発芽試験等を行った結果、生育促進効果が認められた。</p> <p>◆還元水を活用した栽培技術の確立が必要。</p> <p>◆品目毎の実証試験と分析、試験データの蓄積が必要。</p>	<p>・こだわり青果市出展</p> <p>・こうちビジネスチャレンジ基金(トリム基金)へのエントリー</p> <p>・支援チーム会 3回</p>

アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	指標・目標
○香美市観光協会募集ツアー実施 ・春の塩の道うおーく(4月6日) (52 名参加) ○べふ峡温泉利用体験型観光企画実施 ・ピザ焼き体験(4 名参加) ・御幣切り体験(50名参加) ・いざなぎ流舞神楽観賞と体験(31 名参加) ○龍河洞クリスマスキャンドルナイト「Xmas洞内アートギャラリー」の開催 ・高知工科大学の学生サークル(3団体)が参画	べふ峡温泉利用の体験型観光企画商品に県外客を含む計83名の参加があった。	【指標】体験プログラム数(H23:13プログラム) 【目標(H27)】20プログラム 【H25到達点】16プログラム 【指標】体験プログラム受け入れ人数(H23:一人) 【目標(H27)】500人 【H25到達点】400人
・高知中央広域観光協議会設立(5/16) 構成:高知市・南国市・香美市・香南市、各観光協会 ・周遊コースの提案型パンフレットを作成するなど、広域的視点に立った取組みが進み始めている。	・高知県中央広域定住自立圏構想のもと4市(高知市及び物部川地域を構成する3市)による取組みがスタート。	【指標】 観光客入り込み数 H21:72.1万人 H22:78.1万人 (内訳) 主要観光施設訪問者数 H21:67.5万人 H22:73万人 体験メニュー受け入れ数 H21:4.6万人 H22:5.1万人 【目標(H27)】 80万人 【H25到達点】 65万人
・ブース来訪者 25名 ・トリム基金優秀賞受賞支援金500万円獲得		【指標】 栽培技術のマニュアル化ができた品目数 【目標(H27)】 10品目 【H25到達点】 0品目 【指標】「還元野菜」の販売先数 【目標(H27)】 3箇所 【H25到達点】 1箇所 【指標】 機能性に基づく差別化ができた品目数 【目標(H27)】 3品目 【H25到達点】 0品目